



## アニメはどうやって作るの

### なん万枚もの絵を使って作る

テレビのアニメには、とてもたくさんの絵が使われています。じつは、1秒間に18～24枚もの絵を使っているのです。この絵を、映画のカメラのようなもので、ひとこまひとこま写真にとっていくのです。そのため、15分間のアニメを作るのにも、2万枚以上の絵が必要となるのです。当然、写真も、2万回以上とらなければなりません。アニメを作るのは、とても、手間と根気のいる仕事なのです。

アニメに使う絵は、セルというすきとおったフィルムのようなものにかきます。主人公が話をするシーンを見ると、顔の表情は変わらずに、口だけがぱくぱくと動いています。このようなシーンは、口のない1枚の主人公の顔の絵と、口だけかいたなん枚かのセルを作るのです。口のない顔の絵の上に、すきとおったセルにかいた口をのせていきます。そして、口の絵だけをどんどんとりかえていけば、アニメの顔がしゃべっているように見えるわけなのです。同じようにして、主人公が浜辺を走るシーンの場合は、背景の海辺の絵をかき、主人公の絵だけを、どんどん、とりかえて写真をとっていきます。

### でき上がった絵に音を入れて完成

次に、でき上がったフィルムに、音を入れる作業をします。音は、フィルムを見ながら、声優がしゃべって録音していきます。声優の声のほかに、車や飛行機などの音も使います。アニメは、こうして、たくさんの人たちが、手分けして作っているのです。

(監修・青木 国夫)

